

第18回広島市立広島特別支援学校高等部卒業証書授与式  
校長式辞

大手町の旧校舎の正門にそびえる楠木は、今も元気に私たちのことを見守っています。  
広島市立広島特別支援学校第18回卒業生59名の皆さん、御卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

先ほど聴いていただいた曲は、広島市にお住まいのヴィオラ奏者の沖田孝司さんが作曲された「伝えよう笑顔と心」です。本校を巣立っていく59名の卒業生の皆さんに、校長先生から贈る曲です。「この世で一番輝くものは あなたがくれるその笑顔 この世で一番すてきなものは 仲間を思うその心 伝えていこうその笑顔 伝えていこうその心 みんなが集まるこの場所 この場所でこの場所で みんなが語るこの場所 この場所で・・・」

今日は、出島に移転・開校し、真新しいこの体育館で行う初めての高等部卒業証書授与式です。この記念すべき日に、広島市教育長 尾形完治様、広島市教育委員会委員 栗栖長典様をはじめ多数の御来賓の御臨席を賜り、また多くの保護者の皆様の御列席をいただきまして、誠にありがたく、本校教職員を代表いたしまして心よりお礼を申し上げます。

卒業生の皆さん、私は皆さんと出会えたことがとても嬉しいです。この三年間の成長ぶりをずっと見守ってきました。皆さんは、本校の目指す子ども像の「明るく 元気に たくましく」に向け努力され、心も体も立派になりました。心より卒業をお祝いします。卒業証書授与式にあたり、皆さんとの様々な思い出の中から、三つお話しします。

一つ目は、明るい皆さんです。明るく元気な挨拶がとても気持ちよかったです。明るい笑顔で話す友達や先生との会話に、心が温かくなりました。

二つ目は、元気な皆さんです。朝の体力づくりでは、暑い夏の日も、寒い冬の日も続けることができました。体育祭での海をテーマにした表現では、みんなで力を合わせて一生懸命に練習し、元気一杯に演技する皆さんに感動しました。

三つ目は、たくましい皆さんです。作業学習での製品作りでは、真剣に集中して取り組みました。文化祭での作品展示や接客、ステージ発表では、皆さんの努力に涙を流しました。神戸・大阪への修学旅行では、友達と協力して目標を達成し、多くのことを学んだ姿にたくましさを感じました。

在校生の皆さんは、先輩が目指してこられた、「明るく 元気に たくましく」を引き継いでいてください。

卒業生の皆さん、いよいよ社会の中に飛び立っていきます。自分の夢と希望に向かってチャレンジされ、豊かに幸せに歩いていかれることを願っています。皆さんをいつまでも応援しています。

結びに、御列席いただきました保護者の皆様、三年間にわたり皆様のかけがえのないお子様をお預かりして、私たち教職員一同誠心誠意努力してまいりました。中には至らぬ点があったかとも存じますが、本校の教育に対して温かい御理解とお力添えをいただきましたことに、心よりお礼申し上げます。

それでは、卒業生の限りない前途を祝し、一層の成長を心から祈念して本日の式辞といたします。

平成25年3月8日

広島市立広島特別支援学校長 中尾秀行